「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０２１年９月　第141号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

学生と子供の学びの場

舛井ゼミの有志で結成　地域に根差した活動

「ゆにこみゅーん」スタート

ゆにこみゅーんは「滝川市の子供たちとの交流の場を作りたい」と願った舛井ゼミの有志で作られた団体です。ゆにこみゅーんという名称は、「ゆに」（＝ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ）「こみゅーん」（＝ｃｏｍｍｕｎｅ：親しく交わる）という英単語から取っており、地域に根付き、愛される団体になりたいという願いが込められています。この団体は学生と子供たち、そこに地域の産業や文化といったプラスアルファの力を加え、互いが刺激を与え合いながら学び合う場を目指して活動をスタートしました。

7月31日、第1回ゆにこみゅーんを江部乙の農業改善センターで行いました。江部乙小学校の児童が13名、舛井ゼミの有志が17名参加しました。実施内容としては、夏休みの宿題のわからないところを一緒に解いた後、スノードーム作りのワークショップ、そしてドッヂボールや徒競走などのプチ運動会を行いました。コロナ禍で多くのイベントが中止になっている子供たちの喜ぶ姿や一生懸命な姿に私たちが元気をもらい、今後に向けての活力となりました。

大人すぎず、子供すぎない大学生という立場の私たちが子供たちにとっても刺激になっていたら嬉しいです。

9月18日に第2回のゆにこみゅーんの開催を予定していましたが、緊急事態宣言期間中のため中止となりました。東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、子供たちにスポーツに親しんでほしいという願いを込め、パラリンピックの種目であるボッチャなどを行う予定でしたが、残念です。

今後も江部乙改善センターで月に1回程度開催し、滝川市内の別の児童館での開催も検討しています。（総合教養学科2年／木村朱里）

田んぼの生き物調査で自然に触れる　収穫作業も楽しみ

昨年は新型コロナウイルスの影響により実施されなかった稲作体験。今年も終息の目処が立たない中でも私達を受け入れてくださった滝川おもしろ食育塾、とんぼの会の皆さまにとても感謝しています。

ほとんどの学生にとって稲作体験は初めてで、最初は裸足で田んぼの中に足を踏み入れることに戸惑った様子も見ました。でもこんな貴重な体験活動を無駄にしないためにもと思い、田んぼの生き物観察を始めました。いざ足を踏み入れると、泥に足が取られてなかなかうまく進めませんでした。泥の中はプチプチとした感触があり、泥を網ですくってみるとヤゴやアメンボ、カエル、ドブシジミといった普段の生活では見ることのできない生き物を観察することができました。

今回、児童教育コースの2年生はただ体験活動をするだけでなく、小学校教諭を目指していることから、教師になった際どのように指導するべきなのかも学んでいます。炎天下の活動では熱中症対策をしっかりと行うこと。また少し注意が散漫な子どもでも田んぼに足を踏み入れると、感じたことの無い感触を足で感じることができ落ち着いた行動が見られるようになることなどを教えていただき、私達は改めて子どもたちが自然に触れ合うことの大切さを学ぶことができました。

本来であれば、田植えから体験する予定が、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいましたが、今回の生きもの調査をスタートとして、これからの稲刈り、脱穀、収穫祭に向けて大いに興味と意欲が湧いた活動になりました。ご指導いただきました皆様に感謝とお礼を申し上げます。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／伊藤萌衣）

田中一徳先生にインタビュー

アウトドアキャンパスで自然体験

非認知能力への影響を研究

アウトドアキャンパスでのソロキャンプのふりかえりの様子

【プロフィール】田中一徳（幼児・児童教育学科　教授）。東京学芸大学院修了。2009年本学に着任。担当授業は、スポーツ演習A・B、レクリエーション理論・実技、野外実習、健康科学、保育内容（健康）等。

○授業の主な内容について

前期は、学生の健康の維持増進や生涯スポーツを目的としたバドミントン、パークゴルフ、ノルディックウォーキング等を行い、コロナ禍における身体活動量の確保だけでなく、学生同士の交流もできました。後期は、スキー等のウインタースポーツを体験できる野外実習・野外体験を計画しています。またポータブル薪ストーブを活用した料理や健康づくりにも役立つテントサウナも授業で取り入れたいと考えています。

○アウトドアキャンパスについて

アウトドアキャンパスは、自然を活かした「園庭」や「森のようちえん」、自然体験が実施できるキャンプ場をイメージしており、豊かな自然環境を体感できる教育施設となっています。ご視察の希望があればご案内いたします。

○國短キャンパスアドベンチャープログラム　7月23～24日にアウトドアキャンパスにてレクリエーション・インストラクター課程を履修している学生とソロキャンプを実施しました。自然環境の理解をはじめソロキャンプを通して培われる自己肯定感、持続力、対応能力、創造性等の非認知能力の醸成、さらには災害時等における防災教育の一環として行いました。

○研究について

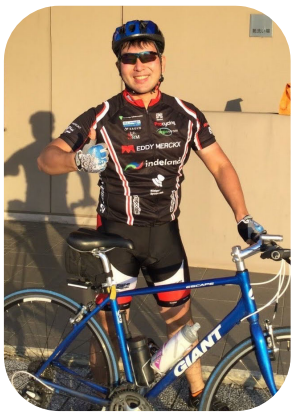
自然体験やレクリエーション活動がストレスや非認知能力に及ぼす影響について調査をしております。また共同研究では、短大グランドを活用して冬季の遭難事故や災害等を想定した雪洞滞在時の生理的ストレスの変化についても取り組んでおります。

◇　◇

田中教授は、社会人対象のオープンカレッジ講座「冬の大人の野遊び入門」で、スノーシュー体験、雪上タープ設営、雪洞づくり体験等を実施する予定です。開講は12月。申し込み受付中です。

大井勇輝さん、滝川で小学校教諭に

「地域に恩返しを」



この度、4年ぶりに滝川へ戻ってまいりました大井勇輝と申します。埼玉県出身ですが、本学国文学科に入学し、四年前に卒業しました。その後、國學院大學文学部史学科に編入学し、同大学大学院博士前期課程を経て、北海道の公立小学校教諭として採用され、この度ご縁があって、滝川市立滝川第二小学校の教諭として再び滝川へ戻ってまいりました。

短大から大学院修了まで、日本近代史を専攻し、特に戦時下における国策、人造石油製造とそれをめぐる地域社会（主に滝川）について研究しました。短大での学生生活を振り返ると、講義はもちろん、地域のボランティアやサークル・部活動、アメリカでの短期留学など、様々な活動が思い浮かびます。

川の科学館では、資格を取得して小学生と一緒に石狩川をボートで下るなど、自然体験活動ボランティアを通して、北海道・滝川の雄大な自然を体感しました。また、世界に誇る「そらぷちキッズキャンプ」に参加して、子どもやその家族に対して何ができるのか、自分に問いかけるようになり、いまに至ります。

サークル・部活動は、自転車サークルを友人と一から立ち上げ、中空知をはじめ夕張や富良野、朱鞠内など各地をツーリングし、大会にも参加しました。裏千家茶道はご指導によりお免状まで取得。古文書の読解にも日々取り組みました。三楽街で友人や先生、地域の方々と、日本酒（二十歳以降）やうどん、鴨鍋に寿司や蕎麦（たまに牛乳ラーメン）と、贅沢で楽しい夜を過ごさせていただき、日本酒好きの私ができました。

そのような楽しい日々を滝川で過ごし、編入後、東京では大学院在学中に世田谷区立桜丘中学校で2年間勤務しました。しかし、日々過ごしていく中で、段々と滝川での経験やお世話になった方々との思い出、北海道に対する想いが強くなっていました。「一度きりの人生、悔いのないように生きたい」「お世話になった方々に恩返しがしたい」と考え、私は北海道へ戻ることを決意しました。その際、滝川での経験がもととなり、小学校教諭の道を選びました。

小学校教諭として半年。実力・経験不足から、悩み苦しむこともあります。しかし、目の前の子どもたちの笑顔を見ると、疲れも吹き飛びます。子どもたちは、4月の頃と比べて様々な場面で成長しており、それを毎日間近で見て、子どもの成長に携われていることにやりがいを感じる日々です。そして、ゆくゆくは、これまでの経験を生かして地域に根差した教育活動を積極的に行っていきたいと考えています。これからも邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

老朽化で「チセ」を解体

最後の「カムイノミ」

アイヌの伝統的家屋「チセ」の解体に先だって、アイヌの伝統儀式である「カムイノミ」（神への祈り）が、9月4日から6日にかけて「チセ」で行われ、7日に解体しました。

「カムイノミ」では、チセ解体に至った経緯を神さまに報告し、チセ内にあるヌサ（御幣）を集めて祭壇をつくり、アイヌ料理や供物を捧げてお祈りし、神さまから解体の了解を得てヌサを撤収しました。

「チセ」は平成13年（2001）9月にアイヌ文化を体験できる施設として復元されましたが、20年を経て老朽化が目立つようになり倒壊の危険もあることから、解体することになりました。

この20年の間には、ペカンペ祭（菱の実の収穫祭を毎年実施）をはじめ、小・中・高校生のアイヌ文化体験授業、市民のアイヌ文化施設、大学の授業の場などとして活用され、多くの人たちに利用されるとともに、アイヌ文化の普及に貢献してきました。

2氏に名誉教授称号授与

8月3日、今年3月末をもって定年退職を迎えた幼児・児童教育学科　黒阪陽一、松田由理子の2氏に対して、名誉教授称号授与式が本学で行われ、平野泰樹学長から名誉教授の称号が授与されました。

黒阪陽一名誉教授から寄贈いただいた絵画（「月下」2019年　改組　新　第6回日展第2科（洋画）入選）と一緒に記念撮影を行いました。

◆　凧の製作も楽しむ

凧揚げの奥深さを学ぶ

日本の伝承遊びの一つである、凧揚げと凧作りを「教育と福祉の基礎」という授業で行いました。

凧の製作には、和紙を使い、自身で作図をして凧の形にしていきます。この作図の際に幅や長さを間違えてしまうと左右非対称になり、うまく揚がらなくなってしまいます。そのため、作図やカッターで切るときは神経を集中しながら行いました。

竹ひごや尾の取り付けを通して凧の仕組みについて学ぶこともできました。私は、凧の尾はただの飾り程度の認識でしたが、実際には回転防止機能があることを知りました。

凧には和柄をテーマにした絵を描きました。和紙のため水を多く含むと破れてしまいます。そのため、べた塗りと重ね塗りを繰り返しながら絵を完成させました。お月見に和柄を取り入れたもの、凧全面を歌舞伎役者の顔に見立てたものなど、それぞれ楽しい凧が出来上がりました。

凧揚げ当日、最初は風が弱く、走って凧を揚げていましたが、良い風が吹き始めると空高くまで揚げることができました。凧揚げは風を読んだり、糸を張ったまま伸ばすなど、想像していた以上に難しく、繊細なものだと感じました。

自分の製作した凧が空高くまで上がり、友達の凧と並んだ時の景色がとても印象深く残っています。（幼児・児童教育学科幼児保育コース1年／若松心々南）

速報　努力の成果がここに！

6月27日行われた令和4年度北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査（1次検査）に、今年も多くの学生が挑戦しました。夢を実現するために努力を重ねた学生の学ぶ姿勢と、それに応える教授陣の実践的な指導により、素晴らしい成果を出しました。2次検査は8月28～29日に行われ、10月末の最終結果の発表を全員合格の願いを込めて待っているところです。

	受験者	合格者	合格率
幼児・児童教育学科　児童教育コース(小学校教諭)	２９名	２７名	９３.１％
国文学科、総合教養学科(中学校教諭)	２６名	２２名	８４.６％
合　　計	５５名	４９名	８９.１％